

うぶやま農業・最適化推進運動 ～農地集積～

農委会名：産山村農業委員会

1 地域の概要

本村は、九州のほぼ中央部にあたり、世界一の複式火山（カルデラ）である阿蘇山や、九州の屋根といわれる九重火山群及び祖母山に囲まれている。

標高約500mから1,047mの高原地帯に属し、阿蘇外輪山と九重山麓が交わる波状高原とその侵食された急傾斜部分から構成された高原型純農山村で、村域は東西6km、南北10kmで総面積60.80km²、その82.7%を山林と原野（改良草地を含む）が占めている。

農地を大きく分類すると、久住山麓に拓けた牧野地帯、それより源を発する数条の河川によって開けた谷部の水田地帯、そして平均標高600mの火山灰土に覆われた畑作台地に分けられる。中小規模農地が点在しており、その地域条件を活かし、水稻、施設園芸、畜産の複合的な営農が行われている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 8人（うち、認定5人、女性3人）
- (2) 推進委員数 5人（うち、認定3人）
- (3) 事務局体制 2人

3 掲げた目標

農地集積目標 100ha

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

令和元年度は上田尻地区における農業の担い手や農地の利用のあるべき姿等について、関係者による話し合いを進め、目指す方向性やその実現手段、実施体制等に係る合意形成を図ることを目的として、農地集積加速化事業に係る重点地区として同地区を指定し、農地利用状況調査（120筆）及び意向調査（67筆）を実施し、農地の出し手の情報を集めた。



【上田尻地区話し合いの様子】

5 取り組みの成果

担い手への集積実績 2. 3ha

上田尻地区における農地集積に向けた具体的な話し合いを実施し、令和3年度までに、担い手への農地集積を3ha集積することを目標に今後も活動していく。

また、高齢農家の農地情報を関係機関と共有し、農地の受け手を探すことで、集積することができたが、目標を達成することはできなかった。

農地意向調査で約13haの農地を実施したところ、自ら耕作再開すると回答があったのが、約3haであったため、その他の農地については、農地中間管理機構等の関係機関と連携し、農地集積を推進していく。



【上田尻地区視察研修の様子】

6 課題と今後の方針等

地域の担い手へ農地集積を行っていくにあたり、作業効率の向上及び労働力を軽減していくことが必要であるため、圃場の基盤整備や高性能機械の導入を行い、機械の共同利用化を推進していくことが、今後の課題であると考えられる。

また、農地利用状況調査及び意向調査を継続的に行い、農地中間管理機構と連携し、農地集積の推進、農地の保全を行う。